

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 18 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170200592		
法人名	医療法人社団 智徳会		
事業所名	グループホーム福寿の里 寿荘		
所在地	岐阜県関市寿町1丁目1番23号 (電話) 0575-25-2511		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年10月18日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 18 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	11 人 常勤 11 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 11 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	10,500~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 27 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中濃厚生病院・真鍋内科・後藤歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より少し奥間った広い敷地に、医院を中心に通所施設とグループホームが併設されている。医院では利用者に対し、専門性の高いリハビリテーションが提供され、通所施設とは、食事・入浴設備などを共用し連携が図られている。職員の異動が多く、馴染みの顔の維持が困難な実情にあり、生活の場としての機能にはやや欠けるが、運営責任者が医師であり、利用者家族からは医療面での安心と期待が大きい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善点は、管理者の交代もあり、本格的な取り組みに向けての体制づくりはこれからである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	新しく就任した管理者は、厳しく現状を自己評価しており、運営者の協力・理解を得ながら改善に取り組む熱意を表している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	中断していた運営推進会議を再び開催し、情報交換が行われている。今後は、具体的なテーマを取り上げ、サービスの質の改善に反映できるように、取り組んでいく方針である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	医療面での安心感がある反面、家族がホームでの暮らしに対して意見や本音を言う機会もあり、記録もしているが、家族の思いをホームの運営に反映する取り組みは、今一步という状況にある。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域との関りは少なく、自治会・老人会、ボランティアとの連携、広報紙の配布、運営推進会議の活用等の取り組みを検討している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より医療法人としての特色を掲げ、身体機能の向上を目指した理念となっているが、地域密着型サービスとして、地域とのつながりや生活視点の理念にはやや欠ける。	○	新しく就任した管理者は、利用者の暮らしを支えるグループホームの意義を十分に理解し、現理念を補う理念の再構築をしたい意向があり、その具現化に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	機能向上を主眼においた理念ではあるが、目立つ位置に明示し、全員で共有し、日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護度が重度で車椅子の利用者が多く、ホーム内での生活が中心となり、地元の人々と交流するまでには至っていない。	○	地域の中に存在するホームとして、近隣の人々や自治会・老人会との交流に、利用者の力量に応じて参加できるような取り組みに期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の交代が頻繁で、評価に対する取り組みの継続性が不確かで、改善するための体制が十分とはいえない。	○	自己評価表作成の段階から、全職員が参加して検討する仕組みをつくと共に、評価から見てきた改善点などを運営推進会議の議題とするなど、評価の活用が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年2月で運営推進会議は中断されていたが、新しい管理者になって再開されている。今後は具体的な課題を提起し、運営推進会議の機能を最大限に活かしていくように努めていく方針である。	○	運営推進会議の委員に良き協力者になってもらい、ホーム運営に反映されるよう期待する。また会議には、できるだけ運営者も参加することが望ましい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議に出席してもらっているが、行き来する機会は少ない。	○	市担当者との緊密な連携を持つことで、サービスの質の向上に活かされたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話での報告がされているが、定期的な個別の報告はこれから取り組んで行く予定である。	○	会報・便り等の発行、個別情報の提供等、検討課題の実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が頻繁に訪問しており、会話の機会を設けて、意見は面会日誌に記録し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職を取り巻く雇用環境が厳しく、離職者の防止が難しいなかで、離職を最小限に抑える努力が続いている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・計画作成担当者は、認知症介護実践研修を修了しているが、職員の研修の機会が少なく、認知症介護の基礎的な技術が十分とはいえない。	○	マニュアルの整備、ホーム内学習会の体制を作ることが望ましい。運営者又は代理者の研修も義務付けられているため、受講を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の会員として、同業者との情報交換がされている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用しながら、徐々に職員やグループホームの雰囲気に馴染み、入所した利用者もいる。今後も、できるだけ安心して利用してもらう事を考えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ゆとりが不足しており、身体介助中心になりがちである。しかし、熱心にコミュニケーションを図る努力をしている職員の姿も一部で見られた。	○	一部職員にとどまらず、全職員が、個々の利用者の生活歴を十分に把握し、話題づくりと気持ちが通い合う会話、雰囲気づくりを工夫されたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が入所する時点で、本人の生活歴を把握するためのアセスメント表があり、ホーム独自の意向把握には努めているが、その情報を収集して記録という形にはとどめていない。	○	アセスメントの整備と活用及び入所後に把握した意向も記録して、職員全員が共有することが望ましい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から任せられるケースが多いものの、よく説明し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの見直しを行い、状態変化に応じて随時見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしてリハビリによる機能維持、生活の継続性に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医院が、かかりつけ医となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の段階に応じ、医師・家族・職員との連携を密に取り、終末期は、病院移送を基本にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員個々の対応にばらつきはあるが、言葉掛けには管理者が注意を払い、ケースごとの指導が見られる。記録等は、管理室に安全に保管されている。	○	認知症があっても、一人ひとりの人格を尊重し、幼児言葉での声掛けにならない配慮がほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の希望やペースを十分に把握し、支援するまでには至っていない。職員のペースになりがちである。	○	職員は忙しく、動き回るだけではなく、ゆっくり、ゆったりした時間を共有することが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設で作ったものを、盛り付ける方法が取られている。グループホームの厨房設備はあるが活用されていない。	○	暮らしの中で、食は生きるための喜びであり、ホーム内で食事づくりの全工程が無理なら、利用者の出来そうな事を見つけ、共に食事を楽しむ工夫に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの入浴施設を共用している。機械浴の設備があるが、回数やタイミングでは制約を受けている。	○	デイサービスでの入浴だけではなく、ホーム内でも、ゆっくり、楽しく、入浴ができるように検討されたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度者が多いこともあって、利用者同士の雑談などが楽しみである。中には隣接のリハビリに通うのを楽しみにしている人もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援は行われていない。家族が時々、ドライブや喫茶店に連れて行くこともある。	○	ホーム裏側には公園もあり、自然の空気や光など、また、近隣の人々と触れ合う機会も支援されたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近くに国道があり、安全のためやむを得ず鍵が掛けられているが、家族の同意を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルができており、避難訓練を年1回行っている。地域の協力体制について運営推進会議で検討する予定がある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保は、ほぼ把握されている。	○	献立表の朝食は、同じ食品の組み合わせが1週間続いている。健康上の配慮があるものの、利用者・家族の希望が反映されているか、検討されたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く確保されており、不快な音や光がないように配慮されている。入浴の時は併設施設に移動している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大きめの収納スペースがあり、使い慣れた家具や小物類が持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。